

平成29年度 算数科授業のポイント

土佐清水市立清水小学校

1、授業スタイル

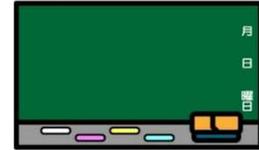
つかむ
(見通す・めあてを持つ)

1、問題場面を把握する。

①既習事項の確認

②課題把握

- ・自分の言葉で問題場面を表現する。
- ・具体的操作で問題場面を表現する。
- ・絵や図で問題場面を表現する。
- ・式で問題場面を表現する。 など



2、既習事項との違いを明確にする。

3、めあてを設定する。

1・2から、児童に本時のめあてを考えさせる。その際に、できるだけ児童のことはでめあてが提示できるようにする。

4、課題解決に向けて、見通しを持たせる工夫

- ・見通しが持てた児童は、誰かに話したくなる。見通しが持てない児童は、誰かに聞きたくなる⇒必然性のある対話へつなげる。

自力解決

1、児童の自力解決の様子を把握する。

2、対話、対話から集団解決(班・全体)に切り替えるタイミングを判断する。

3、次の段階の「学び合い場面」への準備をする。

①どの考えを提示するか…本時のねらいを達成するものを2~3つ選択する。

②どの順序で提示するか…基本的には、多くの児童が考えているものから順に提示する。
(場合によっては、より簡単な考え方から提示することも考えられる。)

③どのように提示するか…ノートやワークシートに児童の考えを書かせ、書画カメラを活用する。

筋道を立てて考え、表現する

(学び合う
練り合い)

1、児童の考えを取り上げる(考えを説明し合い、練り合っていく場)

①学び合いのスタイル☞必然性のある対話を中心に

【統合型】…児童の考えを1つにまとめる方法

それぞれの考え→比較・分類・考察→的確・簡潔・一般性へとまとめる

【直列型】…抽象化レベルの異なる考えを、それぞれの考えのよさを明らかにし、

具体的操作→イメージによる思考→記号化による思考へとまとめる

【並列型】…児童の考えのそれぞれのよさを認める方法

それぞれの共通点や相違点を明らかにして、共通しているところを中心に分類整理する。

②取り上げる順序を考える

- より多くの児童が考えているものから
- 抽象化レベルの低いものから（具体→半具体→抽象）

2、多様な発表活動を取り入れる

- 対話やグループ学習
- リレー発表
- チェンジ発表

3、学び合いの結果をまとめる

- ・学び合いで分かったことを、一度児童の言葉で表現させてまとめる。
- ・他の問題でもできるかどうか試してみようとする態度を育てる。

1、「ためす目的」と「ためす内容」をはっきりさせる。

★「何のために、何を試したいのか」目的意識をはっきりさせる。→付けたい力の確実な習得

- (1) 練習…本時の学習問題と同様な問題
- (2) 適用…本時の問題と少し異なる問題（適用力をつける）
- (3) 発展…本時で学習問題を解決した方法をそのまま用いても解決できない問題。次時に向けての問題解決の見通しをもたせたり、活用力をつけたりすることをねらっている。

2、「ためす方法」を考える。

- (1) 代表的な問題を全員にさせる。
- (2) 代表的な質の異なる問題を2問程度させる。
- (3) すべての問題を一齐にさせる。
- (4) 計算ドリルを利用する。

算数日記スタンダードに沿って、授業ふり返り（算数日記）を書く。

低学年

- わかったこと
- できるようになったこと
- おもしろかったこと

中学年

- わかったこと
- できるようになったこと
- おもしろかったこと
- ★友達の考えでよかったこと
- ★気が付いたこと

高学年

- わかったこと
- できるようになったこと
- おもしろかったこと
- ★これから考えてみたいこと
- ★解決に効果的だったアイデア